

きみのふるさとを もっと 知りたい

学校・育友会・地域が連携したふるさと学習の推進

周南市立沼城小学校育友会

<p>PTA 名称</p>	<p>周南市立沼城小学校育友会</p>	
<p>所在地</p>	<p>周南市大字須々万本郷514番地</p>	
<p>学校・地域の概要・組織</p>	<p>本校は、明治6年2月に開校した歴史ある学校である。周南市の北部の山間に位置し、中央部西寄りには緑山地、南部には徳山山地、北部には金峰山地があり、その溪間に錦川が流れている。</p> <p>本校区はもともと須々万地区だけであったが、児童数が年々減少し、平成21年度に大向地区、22年度に長穂地区、23年度に大道理地区、27年度からは中須地区の児童が沼城小に通うこととなった。現在はこの4つの地区からバスやタクシーで通学している。</p> <p>地域の教育への関心は高く、学校の教育活動に協力的である。</p> <p>それぞれの地区が、地域の活性化のために、様々な活動に取り組んでいるが、少子高齢化は顕著であり、児童数の減少および担い手不足がどの地域においても課題となっている。</p> <p>【組織】</p> 	
<p>研究テーマ</p>	<p>きみのふるさとを もっと 知りたい！ ～学校・育友会・地域が連携したふるさと学習の取組～ 「子どもたち一人ひとりにとってのふるさとはどこ？」という疑問</p>	

	<p>がこの取組のきっかけであった。広い校区を抱える本校にあっては、子どもたちにとっての「ふるさと」は自分が住んでいる地区のことではないであろうか。それは、その地区に住み続け地区のために活動し伝統を守りたいと願う大人にとっては、なおさらのことであろう。「ふるさと」は大向であり、大道理であり、中須であり、長穂であり、そして須々万である。子どもたちの住んでいるそれぞれの地区は遠く、自分たちで移動することはできない。お互いの住んでいる「ふるさと」を知り、互いを理解し合い、大切にしようの気持ちを育てたい。このように考え、この取組を推進することとした。</p> <p>6年生児童は、総合的な学習の時間でそれぞれの地域について調べ、良さを見つけ、それを10月の「ふれあいバザー」の際に、PRする。この時、育友会や地域が連携・協働する。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>この取組は令和6年度から始め、令和7年度は2年目である。子どもたちは昨年度の様子を見ているので、企画の段階から様々なアイデアが出た。</p> <p>自分の住んでいる地域について調べ活動する児童もいれば、そうではない児童もいた。このことにより、お互いのふるさとの良さをあらためて知ることとなり、旧校区を越えた交流やつながりを生むこととなった。</p> <p>バザーを開催するにあたって、何度も話し合いをしたり、試作をしたりした。何よりも学校を飛び出して、現地に行って調査をしたり、地域の人に取材をしたり一緒に活動したりしたことは子どもたちの心に火をつけた。そうして形となったバザー当日は大賑わいで、子どもたちに自信と達成感を育てる価値ある取組となった。</p> <p>【課題】</p> <p>来年度は、児童数が20名減る。これに伴い、学級減、教職員減となる。このような状況の中で、どのような形ならこの取組を続けていけるのか協議する必要がある。今年度は、6年生が2学級だったので、5つのグループに分かれた取組が、可能であった。しかし、来年度以降は、同じ形や規模ではできない。どうしていくのがよいか、知恵を絞る必要がある。また、地域によっては、学校への支援が難しいところがあるという意見も聞かれた。多くの課題を抱えている。だからこそ、この取組の目的と価値を今一度問い直し、共に持続可能性を探っていきたい。</p>

【資料・写真】

